

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0172901761		
法人名	有限会社 あらた		
事業所名	グループホーム あらた		
所在地	北海道旭川市豊岡8条1丁目3番20号 (電話) 0166-34-1297		
評価機関名	タンジント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年8月20日	評価確定日	平成20年9月3日

【情報提供票より】(平成20年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 7月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 18人, 非常勤 4人, 常勤換算	14.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,600 円	その他の経費(月額)	18,000 ~ 24,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 80 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団修彰会沼崎病院・東光整形外科医院 医療法人社団淳彩会永山循環器科クリニック・中山歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあらたは「認知症高齢者が、家庭的な環境の中で暮らし続ける事ができるよう支援したい」という運営者の思いから平成16年7月に開設され、地域活動を大切にしながら2つグループホームを展開されている。全職員で自己評価及び外部評価を活用する中、ヒヤリハットに取り組み、合わせて事故報告書を精査するなどし、事故防止にも積極的な姿勢が家族の期待にも応えています。ホーム内での空間は観葉植物の配置が上手に生かされ、清潔感のある雰囲気となっている。また利用者の表情も穏やかで、職員の自然な温かみのある接し方が伝わり、ホームの基本理念をケアに活かす意欲と姿勢を感じ取ることができた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価であげられていた課題のうち、他のグループホームの見学・相互訪問について更なる交流の拡大に期待します。また、センター方式の活用で利用者の生活歴などを職員間で共有し本人の気持ちに沿った支え合う関係を築く取り組みは順次され、改善されつつある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価を行い実践に反映させている。また本評価を介護ミーティングやカンファレンスで検討する中、職員の意見を取り入れるなど、個別ケアを分析する良い機会と捉え、サービスの向上に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議については2か月毎、定期的で開催されている。各種行事等には運営推進委員でもある地域住民代表らの参加もあり、そこでの意見を反映するなど今後のサービス向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族が面会等で来所の折には、その都度利用者の近況を伝えており、各担当者作成による便りの内容も専門用語を使わず、分かりやすい言葉で利用者一人ひとりの暮らしぶりや健康状態を記載し、毎月送付している。また家族の来訪時にはこまめに声かけを行い直接意見や要望などを聴くなどし、それらを運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業者として地域のつながりを重視し、極めて積極的な連携を働きかけている。とりわけ運営者は町内のお年寄りの家庭を訪問して相談を受けたり、ホームの行事への呼びかけなどでは地域住民宅へ職員が個別に廻るなど地域の人たちとの交流が日常的に行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者はじめ職員は「安心と尊厳のある生活を守る」などの経営の理念と基本方針を理解するなど、その具体的な進め方を確認して日々の業務に臨んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、管理者・職員間で基本理念を唱和している。理念と日々の業務の一致を目標に、全職員で実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者自ら、地域のお年寄り宅を訪問し暮らしの状況を訊ねている。また行事の案内を地域住民宅へ職員が個別に廻るなど積極的な交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価を活用し、職員の意見を出し合い、個別的ケアを分析する良い機会と捉えて、サービスの改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議については2か月毎、定期的開催されている。各種行事等には運営推進委員でもある地域住民代表らの参加もあり、そこでの意見を反映するなど今後のサービス向上に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所として市との関わりの必要性も理解し、管理者は市担当者との連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が面会等で来所の折には、その都度利用者の近況を伝えている。また各担当者が専門用語を使わず、分かりやすい言葉で利用者一人ひとりの暮らしぶりや健康状態を毎月便りにて送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来訪時にはこまめに声かけを行い、直接意見や要望などを聴き、それらを運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は職員の異動などで利用者にはダメージを与えないよう、新しい職員が馴染みの関係を作るために、一ヶ月は引継ぎの期間を設けるなど利用者への配慮をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会・地域包括支援センターの研修への参加、更には外部から講師を招いて研修するなど、認知症におけるケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	新しい職員に対しては業務OJTなどを活用し、系統的な育成を期待します。また中堅職員には認知症ケア専門士などの取得に向け、更なるスキルアップが望まれます。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者・管理者がグループホーム協議会をはじめ、同業者との交流を積極的に行い、情報を職員間で共有するなど、ケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今後は更に多くのグループホームとの交流が計画されている。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「安心と安らぎの生活」を目指したグループホームである。入居前には利用者・家族の見学などで不安を解消する取り組みや、ホームの雰囲気に自然な形で馴染めるよう利用者・家族と相談しながら、サービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々人の生活歴を重視し、観葉植物の手入れやモップ掛け、食事の準備等も一緒に行うなど、家族のように支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員が利用者・家族に丁寧な声かけを行い、本人の気持ちをより深く知ることができるよう、それらの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	定期的に介護計画の見直しも行われ、家族と連携を取りながら本人にも要望を聴くなどし、介護計画に反映している。更には日常の変化を見過ごすことのないよう職員の意見を取り入れながら作成している。	○	センター方式を全職員参加のもと、取り入れるよう計画されている。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月毎と状況の変化に応じ随時の評価・見直しも行われ、日常の小さな変化においても医師や家族・本人と話し合いをするなどし、現状に即した介護計画の見直しがされている。	○	ヒヤリハットの活用と事故報告書の分析をするなどし、それらを活かす取り組みに期待します。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	本人や家族の意見を聴きながら、状況や要望に対して可能な限り対応するなど「能力を最大限発揮できるような」支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者それぞれの主治医との連携体制が確保されている。また看護師が常駐しており、利用者の状況変化などについても適切な医療が受けられるよう支援されている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現実にはまだ終末期をケアした経験はないが「重度化した場合における指針」については入所時に説明し、受け入れる方針を全職員で共有している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>「プライバシーを守ることの大切さ」を基本理念の中に掲げ、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した声かけや誘導の際にも、徹底した取り組みが行われている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、本人の気持ちを大切に、それぞれのペースで生活できるよう個別性を活かす支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	基本理念のひとつでもある「安全と衛生を保ち」ながら野菜の皮をむく人、包丁で刻む人、盛り付ける人など、それぞれ自主的にできることをしてもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決まっているが、利用者の体調への配慮や希望に応じて入浴できるよう、柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	基本方針のひとつでもある「利用者の主体的な決定を行える支援」実現のため、フィットネスクラブやレンタルビデオ店に職員が同行したり、編み物・折り紙など、その人に合った好みや張りが持てる支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園やコンビニ・自宅への外出など行きたい所への外出支援が行われている。	○	利用者の要望や余暇活動の支援について、今後更なる拡大に期待します。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の外出傾向も職員間で把握され、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>緊急連絡網が整備され、見やすい位置に掲示されている。緊急時に職員が速やかに対応ができるよう、利用者と職員が年2回避難訓練を実施している。また近隣住民も参加して消火器を使用しての訓練も行っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分量においては確認の記録がされている。調理担当者が個々の体調に合わせて食事形態を変えたり、食べ残しを少なくするような工夫もされている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な自然な空間の中で、利用者がゆったりとした時間を過ごしている。また書道などの趣味の作品をホールに掲示したり、観葉植物の適切な配置により、居心地良く過ごせる共有空間になっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者本位で居心地良く過ごせる部屋作りに努め、使い慣れた家具を持ち込み、自宅の延長の場となるような工夫がされている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。